地場産業発展の担い手として

★★★中央木材団地落成★★★

長い間の紆余曲折を経て、ようやく十五社が操業を始めている中央木材団地が比江山に完成、その落成式が、四月二十三日、中内県知事、小笠原市長、地元住民ら約四百名が出席し盛大に行われました。

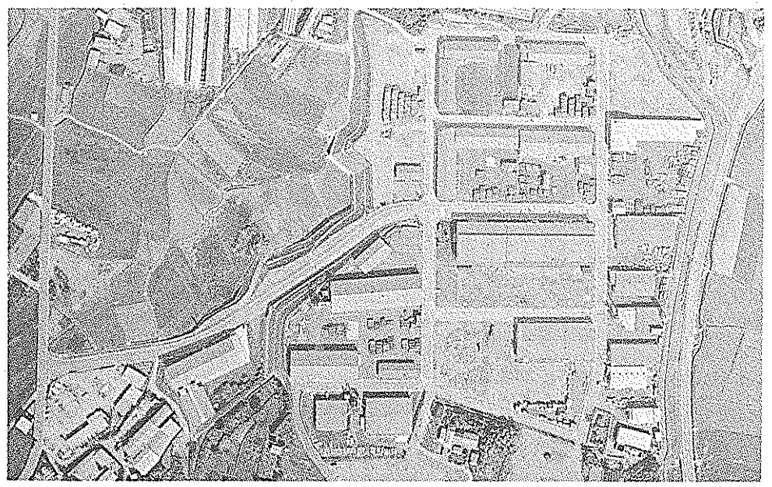
まず、三木組合理事長が「四十七年、中央木材団地協同組合が結成され十年。経済状況は大きく変動し幾多の困難はあったが、落成式を迎えられ感慨無量です」とあいさつ。中内知事が、「場所がなかなか決まらなかったが、このように高速道路のインターのすぐ近くという最良の場所にできて良かった。木材界は厳しい状況ですが、土佐の山の幸を大切に利用して欲しい」。小笠原市長は、「地元の方の協力に感謝します。この木材団地が南国市の経済のレベルアップにつながることを願っています」と、祝辞を送りました。

そもそも、五十一年に比江山が候補地に決まり、地元との話し合いを進め、五十五年二月臨時議会で、比江山十㌶を九億円で、木材団地への売却が決まりました。しかし、地元との協議が煮つまっていないという理由で、造成は一時ストップ。その後話し合いがつき、七月から工事が急ピッチで進められ、五十六年四月にほぼ完了、大字も双葉台と名付けられました。そして現在十五社、五十七年度にさらに三社ができ、計十八社が操業する予定です。

この木材団地は、中小企業が多い木材関連企業を集団化、団地化し、乾燥場や自立工場などの共同設備を整え、生産性を向上させていこうというものです。外材や新建材の普及で、国産材の利用は厳しい折、木材県＝高知県の地場産業発展に大きな期待がかかっています。

南国市としては、木材団地完成により、税収の期待や雇用の拡大などいろいろ利点はあるものの、残された問題も多くあります。比江山の残地七㌶が、歴史公園、グランドとして県の買い上げがなかなか困難で、公社への赤字は依然残っている点。また、造成に伴う地元との約束事がなかなか実行されていないことです。その理由は、当初考えられていた通産省の工業再配置による補助金が、十分に確保できていないことが挙げられます。

地元住民の協力で、ようやくできた木材団地、地元の方の十分な納得の上で、大きな発展が望まれています。



▲比江山に完成した中央木材団地（現在15社が、操業）
▼比江山は、かつてはこんな姿だった……。

営農・生活の向上をめざして

市農協が合併10周年

肥沃な香長平野をかかえ、県下最大の農協として発展してきた南国市農協が、五月一日合併十周年を迎え、農協会館で盛大に記念式典を行いました。

合併当初から組合長を務める島井武義代表理事が、『組合員に役立ち、信頼される農協づくりをさらに進めていこう』とあいさつ。

合併後、農業近代化の施設を充実

各地区の功労者に感謝状の贈呈後、「地域農業の振興と農家経済安定のため、農協組織の総力を結集しよう」という大会宣言を採択しました。

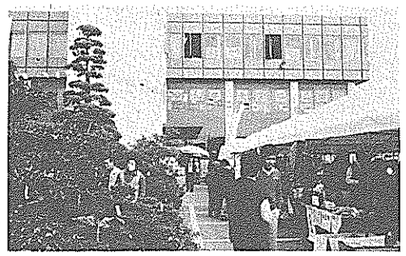
南国市農協は、昭和四十七年、米の生産調整など動揺する農家経済の下で、市内十農協が合併、体質の強化をはかって、組合員の期待にこたえていこうとして実現したものです。その間、ライスセンター、育苗センター、農機車輌センターなど諸施設を整備し、農業の集約化、近代化に努め、さらに営農指導に積極的に取り組んできました。

農業の将来は、楽観できるものは何ひとつといってない状況で、農畜産物の市場開放、水田の転作強化など厳しい現状が続いています。一方、南国市においてもその厳しい現状は変わらないものの、広域農道、高速道路インター、空港ジェット化など輸送網が整備されつつあり、他に比べ有利な条件を備えているといえます。その中で、農協が果たす先導的役割はますます重要です。

最近、一部で「農協は、金融共済事業にばかり力を入れ、農業の未来についてあまり考えていないのでは…」という厳しい声も聞かれます。

農家にとっては、何よりも身近で頼りになり、生活のあらゆる面でかかわっている農協。苦しく厳しい時にこそ、その活躍に大きな期待がもたれています。

盛大に行われた市農協10周年記念式典



多くの組合員が集まる農協祭（56年11月）

(((市民の声)))

市役所の駐車場がいっぱい

【声】…市役所へ用事があって行っても、いつも駐車場がいっぱいで困ることが多い。

よく見ると、職員の通勤車が大半を占め、来客用の駐車場が少ないように思う。なんとかならないものか…。

―市民―

【市役所から】…雨の日や大勢が集まる会議がある場合など、確かに駐車場が満杯の状態で、来庁される市民のかたがたにご迷惑をかけていたことは事実です。

また、「駐車する場所がない」という声もよく聞いていました。

そこで、四月から三和支所廃止に伴って来客も多くなることから、電車軌道北側の公用車車庫隣りに二十七台分の舗装および区画線引きを行う一方、玄関前の二列（五十三台分）を黄線で色わけして、来客用に確保しました。

したがって、今までのような不便をおかけすることはなくなったのではないかと思います。

ところで、すぐ近くに駐車をする場所が十分あるにもかかわらず、玄関前に乗りつけるかたが多くいます。

少しでも入口に近い所へと思われましょうが、駐車マナーを守っていただいて、線内に駐車をお願いします。

市役所に対するご意見、ご要望は、企画財政課内広報委員会（大埇甲二三〇）までどうぞ。